

花巻市石鳥谷地域協議会 平成 27 年度第 2 回会議 会議録

【日 時】 平成 27 年 10 月 13 日（火）午後 1 時 30 分～午後 5 時 13 分

【場 所】 花巻市石鳥谷生涯学習会館講堂及び道の駅石鳥谷

【出席者】 出席委員：13 名

似内英悦、川村次男、菅原重子、岩館大輔、佐々木信行、藤原信雄、熊谷秀夫、八重樫康治、藤澤信悦、佐藤芳彰、高橋公男、晴山美紀子、鎌田愛子

欠席委員：2 名

継枝利尚、佐々木さつき

市側出席者：7 名

総合政策部

八重樫部長、伊藤秘書政策課長、寺林企画調整係長、建設部

藤原部長、中村都市政策課長兼都市再生室長、井元都市再生室主幹兼次長、小松主査

事務局出席者（石鳥谷総合支所）：10 名

藤原総合支所長、中村地域振興課長、晴山市民サービス課長、藤井地域支援監、佐々木地域振興課長補佐、藤井同課長補佐、阿部同課長補佐、晴山市民サービス課長補佐、畠山地域づくり係長、伊藤主査

【道の駅関連施設現地説明及び意見交換】

第 1 回地域協議会の際に現地説明開催の要望があったことから、道の駅関連施設の現地説明を行い、石鳥谷生涯学習会館講堂にて意見交換を行った。

【諮 問】

「(仮称)石鳥谷地域土地利用計画方針(案)」について

9 月に実施した関係団体との意見交換会及び商店街活性化・駅周辺の人口定住促進に関するアンケート結果について、資料に基づき説明し意見を出し合った。次回の地域協議会において再度協議を行うこととした。

【説明及び意見交換】

(1) 立地適正化計画を活用した今後の「まちづくり」に向けて

建設部都市政策課都市再生室から、当市が抱えるまちづくりに関する課題や立地適正化計画の制度概要などについて説明があり、その内容について意見交換を行った。

(2) 「(仮称)花巻市人口ビジョン(案)」について

(3) 「(仮称)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」について

総合政策部秘書政策課から、花巻市人口ビジョン(案)及び花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について説明があり、それらの内容について意見交換を行った。

【傍 聴】

会議を傍聴した者 1名

岩手日日新聞社花巻支社報道部主任 にたどり 似鳥政美

※会議での発言等は別紙顛末のとおり

※会議における配付資料は以下のとおり

資料：

- ・道の駅石鳥谷「南部杜氏の里」周辺図
- ・商店街活性化・駅周辺の人口定住促進に関するアンケート調査
- ・石鳥谷地域土地利用計画方針（案）に係る意見交換会 顛末
- ・石鳥谷地域土地利用計画方針案
- ・立地適正化計画を活用した今後の「まちづくり」に向けて
- ・花巻市人口ビジョン（案）
- ・花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

顛 末

○ 進行／中村地域振興課長

1 開 会

2 挨拶

似内英悦会長

今日は諮問「(仮称)石鳥谷地域土地利用計画方針(案)」があるが、立地適正化計画とリンクする部分もあると思うので、色々ご意見をいただきたい。

立地適正化計画については事前に資料をいただいております、大きなポイントは「当市が抱える課題」ではないかと思っています。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、具体的な目標や基準値が設定されているので、ご意見をいただきたい。

花巻市人口ビジョンについては、シュミレーションによると石鳥谷の人口減少率はそれほどでもないが、大迫地域の減少率は高い。公共交通が要因ではないかという話題もある。皆さんからの意見を頂ければと思う。

石鳥谷土地利用計画方針(案)に係る意見交換会の顛末を見ると、賛同できる意見、興味深い意見が出されている。賑わいのある町についていいアイデアを出していただきたい。

商店街活性化・駅周辺の人口定住促進アンケートについては、地域協議会委員も回答しているが、さらに掘り下げて話し合えればと思う。

道の駅関連施設は、これから現地を見に行くが、課題や今後の整備方法などご説明いただき、意見交換したい。

3 道の駅石鳥谷関連施設 現地説明及び意見交換

進行：似内会長

似内会長

施設を見学してみても感想などを出していただきたい。

私からの感想は、広大な敷地になっていると感じた。敷地がある割には出入り口があちこちにある。まとまりがない感じがして残念。土地利用計画か何かの方法でリニューアルする場合はある程度統一した形にしたい。案内表示があってもいい。良い立地だと思う。道の駅があり、近くにはコンビニがあり、八幡まちづくり協議会が作っている田んぼアートがある。有効に活用できないか。ふれあい運動公園で大きな大会がある場合はこちらにも人を呼び込もうという盛り上げたこともある。それらを加味しながら街中とはまた別の道の駅周辺の活用策を考えればいいのかという感想を持った。

皆さんからもご意見をいただきたい。

佐々木信行委員

一番核となる物産センターとその前にある産直の今の状況としては、連絡通路もなくまったく連携の無い状況が気になる。全体的に活気がないと思うのは、他の道の駅だと出店とかスイーツの店があってそういうところに人の賑わいがあるが、そのようなものがない。ぱっと見た感じ飲食できるスペース、出店などで買った物を外で食べられるスペースが少ない。散策路はテーブルなど置いてあるが、隠れていて見えない。オープンにしてくつろぎスペースとして開放し、気軽に外で飲食できるような場所ができればいいのではと思う。

他の道の駅と違って、せっかく図書館があるが、本を借りたり返却に来るときに外で本を読みながらくつろげるスペースがあれば、実際もっと使いやすくなる。

出店とかイベントをやって地元のを発信できるように考えてはどうかと思う。

似内会長

ファーストフードみたいなものは道の駅内にあるのか。ソフトクリーム屋はあったようだが、その他はあるか。

中村地域振興課長

立ち食いそば屋がある。

佐々木信行委員

スイーツとかお店があればいいのでは。酒匠館にしても外から中がまったく見えない、伝わらない。建物はたくさんあるが中の様子が分からない。全体的なアピールが伝わらない。もったいない。

八重樫康治委員

それぞれの施設がばらばらに存在しているという感じがする。最近ほかの産直や物産館を見るとグレードが高いところが増えてきている。せっかく南部杜氏伝承館があっても客が行かないし販売に寄与していないようなのもったいないと思った。

南部杜氏伝承館と物産センターを一本化して、南部杜氏伝承館で全国のお酒が買えるといったような人が集まる施設にしてはどうか。特に酒匠館という名前なので、そこで高い酒や美味しい酒を販売したり、産直を別棟にしないで物産センターの中に含めて小さい建物を無くしてもいいのではないかと思う。

駐車場やトイレ付近にある案内板を撤去して、駐車場を一本にして広がりを持たせればもっと広く感じていいのではないかという気がする。

農業伝習館は、今は農業伝承をすと言っても石鳥谷で他に無い何か特別なものということはやっていないので、別な施設として活用したほうがいいのではないかと思う。

藤原支所長

酒匠館もできた当時は産直施設が無かったので、椅子を置いて休憩できるような場所があ

った。食べ物を買っても休憩場所がなく車の中でしか食べられない。そこが一つ大きな問題かと思う。南部杜氏を知ってもらい形にして気軽に入ってもらい、そこで何か買って休憩できるよう今後進めていくべきだと思う。周りの駐車場の観光案内板、野外ステージの撤去については費用がかかるので、計画をたてて話し合いながら進めていきたい。

晴山美紀子委員

南部杜氏伝承館の2階がどうなっているか楽しみにしていた。贅沢な空間に石川啄木、宮澤賢治といったパネルが置いてあった。時代遅れの展示だと思った。今はパソコンで見ることができるし、1階に2階のものを置き、空いた2階の空間でゆっくりくつろげる場所にしてもいいし、せせらぎ散策路にテーブル等を置き、30分でも1時間でもゆっくりしようと思える空間を作れば若者たちも来るのではないかと思った。

似内会長

壁や駐車場の自販機、看板を移設すれば、広大な敷地が目に入るのではないかという気がする。

藤原支所長

国道からの入り口の白壁については、国道から道の駅の様子が見えないという難点がある。せせらぎ散策路に行くにも樹木が多くて見えない。見えるような工夫をし、休憩できる場所を整備して提供できればと思う。

駐車場の一体感については国土交通省とも話し合ったが、良いことだということで全く応じないというわけではなかった。情報館が活用されていないという悩みもあり、そのことも含めて国土交通省と話し合っていければと思う。

似内会長

岩手県第1号の道の駅なので、ここを核として注目されるスポットとなるよう行政としても力を入れていただきたい。

4 諮 問

資料に基づき説明

似内会長

方針案については今日決定するのか。

藤原支所長

是非を問うものではなく、さらなるご意見があれば賜りたい。

似内会長

非常に興味あるアンケートだと思う。ご意見があればいただきたい。

藤原信雄委員

この内容が全てだと思う。これ以上の意見はないと思う。これだけ立派な資料があるので、どのように集約して実行に移すのかということだと思う。

似内会長

それぞれの立場の方が答えたアンケートだが、商店街の方も農業者と同じ意見を持っていると思った。高齢者、あるいは人が集まれる場所というのがキーワードであると感じ取れる。気軽に集まれるスペースを求めている。これから考えるべきことじゃないかと思う。

感想などあれば出していただきたい。

藤澤信悦委員

石鳥谷の特徴として、福祉施設の充実があると思う。これから高齢者が増えるとすればそれを核にして計画していけばいいのではと思う。総合福祉センターに駐車場スペースが少ないと聞いているが、ここを核にしながら活性化したらどうか。

石鳥谷には高等学校が二つある。これも石鳥谷の活性化につながらないのかと思う。

似内会長

石鳥谷駅の周辺についてはだいたい皆さんの意見が集約されているようだが、活用方法はある程度集約できるような感じがする。

藤原支所長

東側は駅前の賑わいや製材所跡地の住宅地という考え方で進めることは可能だと思う。商業地域は旧宝峰、七福神の工場跡の土地の利活用をどうするか、新石町通りは現状維持だが空き家が増えてきている。駅の北側は住宅地としてまだ余裕があるが白幡薬師堂線の道路整備について建設部のほうでこれから進めていく。駅の西側についてはいろんな方から話を聞くと商業施設は無理だと聞いている。石鳥谷小学校など文教施設もあることから生活地域という考え方で進めていくことができるが、市有地が空き地になっているのでその活用を考えていかなければと思う。

似内会長

興味あるアンケートなので、もう少し読み込んで次の協議会でも話し合えればいいと思う。

藤原支所長

市の公共事業が盛り込まれることもあるので、皆様方と意見を重ねていきたいと思っている。第3回の協議会として12月の議会後に開催できればと思っている。その時にいろいろ

なご意見をいただきたい。

似内会長

地域協議会のメンバーはそれぞれの立場がある方々なので、このアンケートの活用、あるいは土地利用計画を何かの場面で活用しながらそれぞれの地域で進めていただければと思う。今日で終わりということではなくまだ話し合いを重ねながら練っていけばいい町づくりができるのではないかと思う。

5 説明及び意見交換

(1) 立地適正化計画を活用した今後の「まちづくり」に向けて

都市政策課長より資料の説明の後、質疑応答を行った。

似内会長

ご意見ご質問をお願いします。

藤澤信悦委員

資料2 ページ下段に「まちなか」の定義が書いてあるが、花巻市中心部の現実をみると「身近な買い物、受診や会合などを行っているエリア」という部分が該当しない。そういうところを「まちなか」と考えること自体を考え直さなくてはならないのではないか。むしろ駅西のほうが非常に便利になってどんどん人がそちらに増えている。思い切って花巻市役所を移転するとか、駅西をまちなかにするという発想は認められないのか。

中村都市政策課長

「まちなか」の考え方は様々あると思う。私どもが考える「まちなか」は伝統的にそれぞれの中心部だった場所を考えており、花巻地域だけでなく旧3町も同じことでそれぞれの地域でまちなかとして認識されていた場所、と考えていただければと思う。

さまざまな施設を思い切った構想でということだが、例えば市役所のような大きな施設を移転するにはそれなりの土地が必要となってくる。具体的にはそれぞれの地域で思い切ったことを考える大きな土地はそれほど多くはない。市街地でも元通りにはならないかもしれないがかつての町づくりを考える大きなチームがある。それぞれのまちでもさまざまな公共投資をしている。道路整備や下水道整備、区画整理といったようなものが有効活用されなくなるような状況をそのままにしているのかという問題があり、公共施設を新たに作るのではなく、今あるものを有効に使うべきだということが新しい制度ができた背景の一つである。私どもも新しく町を広げるという視点ではなく、それぞれの町を維持し活用することを方向付けし示していきたいと考えている。

藤澤信悦委員

「まちなか」の人たちがお年寄りを残してどんどん移動している。若い人たちの意識の改革をしてほしいと思う。

佐々木信行委員

居住誘導区域を設定している地域というのは従来の「まちなか」と呼ばれる地域になっていると思うが、その特色として歴史や伝統が詰まった場所ということで、逆に言えば新しく人が住もうとしても新しい土地がないとか、道路が狭いとかいろいろな問題があると思う。行政が空き家を取り壊し更地を作って宅地を提供するとか、理念は非常にいいと思うが、実行に移す時に人が戻ってくるような政策はあるのか。

中村都市政策課長

計画に基づく事業というのは、行政ができる部分での事業ということで、これだけですべてができるというわけではないと思っている。9 ページにあるイノベーションまちづくりのように民間主導の事業もある。主に街中にある遊休不動産を活用して新たにビジネスを始め、人を集めようという取り組みをしている。壊して新しく作ることは人を呼ぶにはいいことだが、お金がかかる。それよりも今あるものを工夫して活用しようという取り組みをそれぞれの地域でも展開していきたいというふうに考えており、そのためにいろいろなセミナー等を開催し広めることも並行して進めてまいりたいと思う。

藤原建設部長

補足させていただきたいが、ご意見いただいたように旧市街地の方の意識の醸成というのは大変重要であり、商店街の方との意見交換も行っている中でそうした中で意識の醸成を図っていききたい。駅西については、区画整理事業が終わった地域で、また開発するとなると市街地の拡大につながってしまい旧市街地の衰退につながってしまうので、「まちなか」の見直しを図っていききたいと思う。

佐々木信行委員

花巻駅前のプロジェクトは成功事例だと思うが、新しい人たちが何かしようという時に民間主導だけでやると限界があると思うので、地域全体でそういう人たち・お店をサポートできればと思う。商店街で売っているようなものはネットでも買うことができるので、商店街の生き残りは非常に難しい。

(2)「(仮称)花巻市人口ビジョン(案)」について

秘書政策課長より資料の説明の後、質疑応答を行った。

似内会長

内容についてご質問をお願いします。

藤澤信悦委員

先日市民ワークショップに参加したが、その中の講演で都市部のお金持ちの高齢者を呼び込むのはどうかという話があり、良い考えだなと思った。

石鳥谷にも高齢者を対象とした施設が本当に充実しているので、若者よりはむしろ高齢者の移住に取り組んでほしいと思うが、市ではどのように考えているか伺いたい。

伊藤秘書政策課長

2 ページの人口の推移をみると、75 歳以上は 2020 年代まで人口が増えるとされている。もともと花巻市に住んでいる高齢者で施設に入れないというような状況がある場合は、それ以上のお年寄りが花巻市に来て難しいのかなと思う。ただ、都会の方が花巻に来て老後を迎えるということは十分考えられることなので、社会保障や税金の面でも研究をしようと思っているところである。

(3) 「(仮称) 花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (案)」について

秘書政策課長より資料の説明の後、質疑応答を行った。

似内会長

膨大な量だが、ご意見等あれば出していただきたい。

花巻市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、今回の意見を反映し、次は成案という形で示されるのか。

八重樫総合政策部長

10 月までに成案を作り、さらに内容を精査しながら改定作業を行い、年度内に確定させていきたいと考えている。また皆様にご説明する機会は設けたいと思っている。

似内会長

地域協議会のメンバーとして意見を述べられるのは今日の会議ということなので、ご意見を出していただきたい。職員の皆様の努力によりこれだけ立派な戦略を作られたことは評価したいと思う。

岩館大輔委員

若者が外に出て修行をするのはいいと思う。あとは帰ってくるかどうかだと思う。高齢者がこちらに移り住むのはどうか、私だと雪かきが嫌なので田舎暮らしは高齢者は大丈夫なのか考えさせられる。一番根幹になる部分を何とかしなければと思う。1 次産業を盛り上げる

のが一番。コメの値段をまず上げてもらう。農家で食べていけるような世の中になればみんな帰ってくると思う。都会に出て学んだことを田舎に帰ってきて生かす。1次産業が盛り上がっていないと何もかもダメだと思う。自分も商売をやっているので、コメが取れなければ商店もダメだと昔から言われている。農家の皆さんが潤っていないと物も買ってもらえない。石鳥谷は6～7割農家なので、そういう人たちのことを一番に考えて全国に先駆けて1次産業を強化してもらえればと思う。

八重樫総合政策部長

高齢者の移住に関して、CCRCについては検証をしてみないと分からない部分がある。介護施設が増えてくると介護保険料に影響があるのでその辺りも含めて十分検証していきたい。午前には花巻市自治推進委員会を開催したときも、花巻市はスポーツ施設等充実しているが、除雪が大変だという委員からの指摘もあった。そのような課題が戦略を具体化していくうえでのポイントとなると思う。

1次産業を盛り上げることは、その通りだと思う。戦略でも担い手の確保や女性の就農推進など、関連した方針を掲げている。具体化できるいい案があればご意見をいただきたい。

似内会長

戦略については5年ごとの見直しということか。

八重樫総合政策部長

5年分の戦略を作るよう示されており毎年検証していくが、6年度以降については国から示されていない。5年後については花巻市まちづくり総合計画と戦略の見直し時期が重なるので、市とすれば検証し仮に6年度以降の戦略について指示がなくても総合計画の中で取り組んでいきたいと考えている。

藤澤信悦委員

57ページの基本目標④の基本的方向の中に「自助・共助・公助」とあるが、長寿福祉課の方では「自助・共助・公助・互助」という考え方を示していたように思うが、こちらの戦略の中では「互助」という考え方は含めないのか。言葉の使い方の整合性という意味で伺いたい。先日生涯学習会館で行われたワークショップに参加したが、3時間行われたがいいアイデアがたくさん出た。非常に中身の濃い内容だったので生かしていただきたい。

八重樫総合政策部長

57ページの中で「自助・共助・公助の考え方のもと」とあるが、行政施策の中で防災危機管理体制のことを言っている。災害対策基本法に基づき花巻市防災計画を策定しており、その中で自主防災組織の活動などいろいろある中で、使っている用語の意味としては、自分の身を自分で守るのが基本で、それを支えるのが家族であり、ご近所、地域の自主防災の取り組みなどである。そして、行政、消防や警察などの公の助けというのは、大きな災害が発生

した時はなかなか大変だということで3段階の助けの思想として一般的に使われていると実感している。

長寿福祉課ではお年寄りを助けるという考えのもとで、「自助・共助・公助・互助」という言葉を使っているのではないかと思う。お年寄りがお互いを助け合う意味で互助という思想だと思うが、確認していないので明確なお答えはできない。

高橋公男委員

人口減少は花巻市だけではなく全国的な問題だと考えている。市としても率先してやっていただきたいと思う。どうすれば人口減少をできるだけ少なく抑えることができるかを考えた場合、46 ページにいい計画が載っている。「高校生に向けて将来の人生観や結婚観の醸成の場や、妊娠・出産などについての正しい知識等を学び考える機会を提供する」とある。ここでは高校生とあるが、幼児、小・中学生を含めた小さい世代から、我々は子供を日本を背負う将来の担い手として育てていかないと、将来大人になった20年先に帰ってこないのではないかと思う。そういう教育を高校生のみではなくさらにその下の世代から取り組むことが大切だと思う。この案はこのとおりで良いと思う。この戦略を進めていただきたいと思う。

似内会長

他にご意見があればいただきたい。

無いようなので、本日はこれで締めることとする。

6 その他

委員、事務局からはなし

似内会長

長時間、議論をいただいたことに感謝申し上げたいと思う。

7 閉 会